

長谷川昭道

あきよし

國學者。文化十一年十一月二十九日信濃國塩科郡

松代生れ、明治三十年一月二十日歿（八五―九七）。幼名元亮、通稱深

美。號一峯、戶隱舎、東洋逸民、靜儉陳人。佐藤一齋門下、佐久間象

山、横井小楠と同門。勝手元締没として藩費の創設に盡力。嘉永六年

對土廟係にあらた象山の陰謀により失脚、塾居處分。元治元年許され

て京都留守居没となり、また藩論を會堂に統一した。明治二年太政官

權大史、翌年辭して歸郷。

著書に『九經談總論評說』（明治四十二年七月十五日飯島忠夫刊）、

全集二卷（昭和十年刊）等。飯島忠夫著『長谷川昭道傳』（明治四十

五年五月二日飯島忠夫刊）、同著『長谷川昭道の皇道派義』（再刊・

昭和十八年一月）二十八日内閣印刷局「日本精神叢書」に収めらる。